リハビリテーション部

1.　スタッフ構成

○椿　崇仁(整形外科主任部長、救命救急センター副センター長、リハビリテーション部長、リハビリテーション科主任部長、地域医療連携室副室長)

＜理学療法士＞

○森川　明(技師長)、片木　祐志(副技師長)、木口　大輔(担当係長)、都築　宏正、増田　一基、天野　貴裕、藤田　典道、井上　瑞貴、渡部　遥子、青木　卓也、武智　悠二、山上　夏実、清水　麻美、黒川　絢帆、岡田　朱莉、仙波　由梨、小西　優治、樋口　樹里、二宮　美里、松本　由希子、大野　聖佳、宮崎　諒也

＜作業療法士＞

○林　美里、佐竹　敬太、小島　裕希子、石山　健太、玉井　誠也、上甲　早苗

＜言語聴覚士＞

○三瀬　和人、鈴木　万葉、桑原　百加、藤森　摂、福島　かおり

2.　認定資格取得

資格名	資格取得者
日本理学療法士協会呼吸理学療法専門理学療法士	木口大輔
日本理学療法士協会運動器認定理学療法士	松本由希子
日本理学療法士協会脊髄障害認定理学療法士	木口大輔、藤田典道、青木卓也、武智悠二
日本理学療法士協会呼吸認定理学療法士	都築宏正
日本理学療法士協会代謝認定理学療法士	天野貴裕、武智悠二
理学療法士・作業療法士・言語聴覚士養成施設教員等講習会修了	森川明
日本理学療法士協会臨床実習指導者講習会修了	木口大輔、都築宏正、増田一基、天野貴裕、藤田典道、井上瑞貴、渡部遥子、青木卓也、武智悠二
日本作業療法士協会臨床実習指導者講習会修了	林美里、小島裕希子、佐竹敬太、石山健太、上甲早苗
日本理学療法士協会生涯学習制度新人教育プログラム臨床指導施設講師	木口大輔、青木卓也
日本言語聴覚士協会生涯学習プログラム基礎講座講師	藤森摂、三瀬和人
日本心臓リハビリテーション学会心臓リハビリテーション指導士	片木祐志、天野貴裕、青木卓也
日本理学療法士協会介護予防推進リーダー	木口大輔、天野貴裕、藤田典道、井上瑞貴、渡部遥子、青木卓也
日本理学療法士協会地域包括ケア推進リーダー	木口大輔、天野貴裕、藤田典道、井上瑞貴、青木卓也
日本理学療法士協会フレイル対策推進マネジャー	木口大輔、天野貴裕、青木卓也
日本理学療法士協会協会指定管理者(上級)	森川明、木口大輔、天野貴裕、藤田典道、青木卓也
日本作業療法士協会認定作業療法士	佐竹敬太
日本言語聴覚士協会認定言語聴覚士(失語・高次脳機能障害領域)	三瀬和人
日本言語聴覚士協会認定言語聴覚士(摂食嚥下障害領域)	三瀬和人
日本胸部外科学会・日本呼吸器学会・日本麻酔科学会3学会合同呼吸療法認定士	木口大輔、都築宏正、天野貴裕、井上瑞貴、松本由希子、大野聖佳、林美里、石山健太
日本呼吸ケア・リハビリテーション学会呼吸ケア指導士	木口大輔、都築宏正、天野貴裕、三瀬和人
日本糖尿病療養指導士認定機構日本糖尿病療養指導士	天野貴裕
日本腎臓リハビリテーション学会腎臓リハビリテーション指導士	天野貴裕
日本健康運動指導士会健康運動指導士	天野貴裕
日本パラスポーツ協会公認中級パラスポーツ指導員	木口大輔、藤田典道、渡部遥子、青木卓也
日本栄養治療学会NST専門療法士	三瀬和人
日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士	三瀬和人、鈴木万葉
日本循環器学会心不全療養指導士	黒川絢帆
日本認知症ケア学会認定認知症ケア専門士	天野貴裕、小島裕希子、三瀬和人
日本科学技術連盟QCサークル上級指導士	三瀬和人
愛媛県介護支援専門員	三瀬和人
文部科学省・厚生労働省公認心理師	林美里、三瀬和人、鈴木万葉
愛媛相談支援協会障がい者相談支援専門員	小島裕希子

3.　運営方針

チーム医療を推進する精神のもと、患者さんやご家族に優しく接し、患者さんの機能低下・能力低下・社会的不利に対して全人的医療に基づいたリハビリテーションの提供に最大限の努力を注ぎます。質の高いリハビリテーション医療を提供すべく、自らの知識・技術を日々向上させるよう研鑽に努めています。また、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士のリハビリ専門職種が急性期の幅広い疾患に対応するため、疾患別の専門リハビリチームを編成し、高度でより専門的なリハビリテーションが行えるシステムを構成しています。

4.　実績

＜対象疾患＞

(1) 脳血管疾患リハ：脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、脳外傷、脳炎等、脊髄損傷、脊髄腫瘍等、多発性神経炎、多発性硬化症、パーキンソン病等

(2) 運動器疾患リハ：上肢・下肢・体幹の外傷、骨折、切断、複合損傷等、関節の変性、炎症性疾患、熱傷等

(3) 呼吸器疾患リハ：COPD、間質性肺炎、肺結核後遺症、慢性気管支炎、肺炎、無気肺、胸腹部外科手術後等

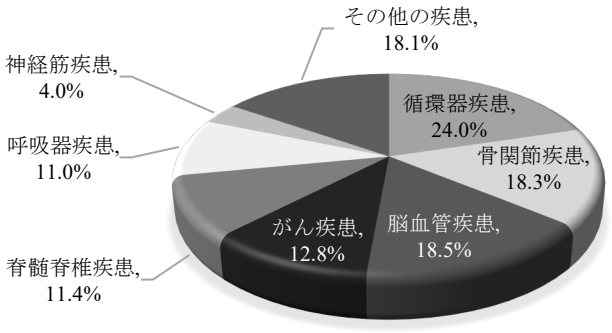
(4) 心大血管疾患リハ：心不全、弁膜症、心筋梗塞、狭心症、大動脈解離、解離性大動脈瘤、開心・大血管手術後等

(5) がんリハ：造血器腫瘍、肺がん、消化器がん、頭頸部がん、乳がん等

■ 疾患別リハビリ依頼患者数

疾患(ICD10準拠)	患者数
脳血管疾患	
脳梗塞	155
脳出血	97
くも膜下出血	63
頭部外傷	35
脳腫瘍	56
脳炎・髄膜炎	14
その他	139
神経筋疾患	
パーキンソン病	12
多巣性運動ニューロパチー	46
多発性硬化症	4
ギランバレー症候群	5
重症筋無力症	12
その他	42
脊髄脊椎疾患	
脊髄損傷	35
脊椎骨折	17
脊椎変性疾患	195
その他	99
骨関節疾患	
大腿骨頚部骨折	20
上肢骨折	92
下肢骨折(骨盤骨折含む)	106
多発骨折	22
関節変性疾患	171
切断	20
その他	123
呼吸器疾患	
肺炎	132
慢性閉塞性疾患	12
間質性肺炎	46
その他	143
循環器疾患	
虚血性心疾患	141
心不全	203
大動脈瘤	142
心臓弁膜症	120
その他	120
がん疾患	
血液がん	164
乳房がん	43
肺がん	94
消化器がん	46
頭頚部がん	10
その他	31
その他の疾患	549
合計	3,576

■ 疾患別リハビリ患者数の割合



■ 外来新患者数

分類	患者数
上肢障害	137
下肢障害	33
呼吸障害	57
高次脳機能障害	8
その他	3
合計	238

■ リハビリテーション部依頼患者数

・　3,814名

当院では地域連携パスの計画管理病院として、大腿骨頚部骨折は2009年12月より、脳卒中は2010年7月より参加しています。

■ 地域連携パス対象患者数

	パス対象	パス対象外
大腿骨頚部骨折	0	20
脳卒中	3	312

■ リハビリテーション実施単位数

区分	2019	2020	2021	2022	2023
心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	16,764	12,433	12,359	10,989	10,345
脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)					
理学療法	14,710	13,266	11,685	11,869	11,224
作業療法	11,473	9,254	9,951	10,604	8,717
言語聴覚療法	7,141	5,071	4,565	4,880	3,695
小計	33,324	27,591	26,201	27,353	23,636

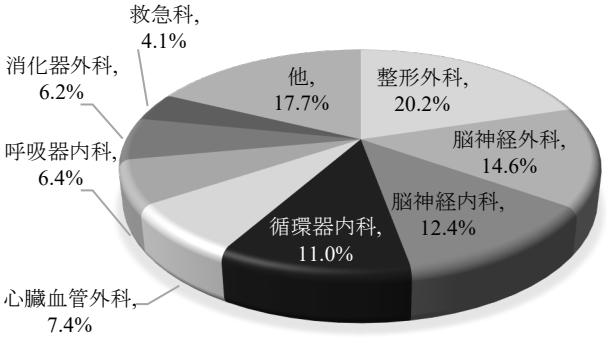
廃用症候群リハビリテーション料(I)					
理学療法	5,687	4,541	5,064	5,841	6,956
作業療法	2,213	2,429	2,521	2,615	2,170
言語聴覚療法	101	46	44	67	2
小計	8,001	7,016	7,629	8,523	9,128
運動器リハビリテーション料(I)					
理学療法	28,622	19,538	16,699	19,007	18,541
作業療法	3,108	4,640	4,622	4,887	4,148
小計	31,730	24,178	21,321	23,894	22,689
呼吸器リハビリテーション料(I)					
理学療法	5,705	3,540	4,236	4,113	4,175
作業療法	1,120	922	1,361	2,294	2,262
小計	6,825	4,462	5,597	6,407	6,437
がん患者リハビリテーション料	6,700	5,933	4,439	4,285	3,438
合計	103,344	81,613	77,546	81,451	75,673

リハビリテーション総合計画評価料	4,237	572	369	343	309
初期加算	43,326	36,255	35,631	36,298	37,406
早期リハビリテーション加算	68,081	54,623	49,852	55,166	54,605
退院時リハビリテーション指導料	661	1	257	274	62
摂食機能療法	2,989	2,995	2,860	3,613	3,192
消炎鎮痛等処置器具等(人)	171	54	121	29	54

■ 診療科別リハビリ依頼件数内訳

診療科	2019	2020	2021	2022	2023
整形外科	837	874	857	891	930
脳神経外科	758	673	598	674	674
循環器内科	674	614	592	508	509
脳神経内科	424	397	384	545	570
心臓血管外科	289	316	330	342	340
呼吸器内科	222	203	273	319	297
消化器外科	135	201	264	280	284
血液内科	205	228	185	201	179
消化器内科	144	122	154	209	159
救急科	150	139	138	196	189
腎臓内科	131	89	88	77	61
呼吸器外科	106	87	92	71	78
総合診療科	98	79	51	55	66
泌尿器科	64	54	55	57	67
乳腺・内分泌外科	52	60	48	71	59
耳鼻咽喉科	36	42	60	48	51
新生児・小児	31	32	55	36	34
形成外科	52	35	32	30	23
感染症内科	―	―	80	67	0
糖尿病・内分泌内科	7	10	19	34	15
皮膚科	20	18	13	17	20
産婦人科	8	4	3	3	2
眼科	0	1	2	2	1
ペインクリニック内科	1	0	1	0	0
麻酔科	1	0	0	0	0
放射線科	0	0	1	0	0
歯科	0	0	0	0	1
合計	4,445	4,278	4,375	4,733	4,609

■ 依頼件数の内訳



5. 2024 年度目標

(1) 早期介入、高密度リハビリテーションによる回復加速

急性期リハビリテーションにおいて、①早期介入、②多頻度治療、③多単位治療、④多職種介入は治療効果を高めるうえで重要なポイントとされています。先進急性期病院においても、これらの傾向が加速され高水準のリハビリテーションが実施されています。当院は高度先進医療を提供する病院として、リハビリテーション分野においても高品位の医療を早期から提供することが求められています。当部では各診療科からのリハビリ処方に対して、即日リハビリ開始や休日リハビリ対象患者の拡大を目標に早期介入の取り組みを行っていきたいと考えています。

(2) 廃用症候群の予防

現在、高齢患者の増加や転倒転落予防により、廃用症候群に至ったリハビリ依頼患者が増加してきています。一般的に廃用性筋萎縮等の治療には、安静期間の約 1.5～2 倍の時間を要するため、廃用症候群は予防が最も重要であり、予防こそ最良の治療であるといわれています。今年度も急性期リハビリとして院内・院外の多職種や後方病院との連携強化により廃用予防リハビリに取り組むことで、早期機能回復を促していきます。

(3) 各疾患別専門リハビリチームの取り組み

各疾患別リハビリ担当者を中心として、専門分野別(運動器・脳血管・心大血管・呼吸器・がん・廃用症候群)リハビリに取り組んでいます。患者さんの ADL(日常生活動作)改善や QOL(生活の質)向上のため、各関係診療科等のカンファレンスや勉強会に積極的に関わっていきます。これからも各関係診療科の医師や看護師、他のメディカルスタッフ部門との連携を図り、総合的なリハビリの充実を促進していきます。

6. 学術関係

(1) 学会発表および講演

1. 上甲早苗. 術後せん妄を起こした認知症患者の作業療法士としての役割. 第 32 回四国作業療法学会. Web 開催 (2023.1.28-29)

2. 三瀬和人. 失語症について～その原因と対応の仕方～. 愛媛県在宅介護研修センター県民公開講座. 松山 (2023.2.3)
3. 天野貴裕、武智悠二、黒川絢帆、鈴木万葉、三瀬和人、戎井理. 高齢糖尿病患者の舌圧と握力の関係. 第 27 回愛媛県理学療法士会学術集会. 松山 (2023.3.12)
4. 清水麻美、青木卓也、木口大輔、森川明. 心理回復過程に着目した大腿切断症例の理学療法経験. 第 27 回愛媛県理学療法士会学術集会. 松山 (2023.3.12)
5. 天野貴裕、鈴木万葉、三瀬和人、三谷幸子、荒本孝良、渡部杏子、明坂和幸、宮内省蔵、大野敬三、戎井理. 2 型糖尿病患者におけるオーラルフレイルとサルコペニアの関連. 第 66 回日本糖尿病学会年次学術集会. 鹿児島 (2023.5.11-5.13)
6. 青木卓也、大島埴生. 生活史がリハビリテーション意欲に与える影響－腎癌の多発性骨転移により腰髄損傷を合併した 1 症例－. 第 14 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 2023. 名古屋 (2023.5.12-14)
7. 木口大輔. 造血細胞移植におけるリハビリテーションの役割. 厚生労働省造血幹細胞移植医療体制整備事業令和 4 年度看護基礎研修II. 松山 (2023.5.19)
8. 三瀬和人. 失語症の特徴と適切な関わり方. 愛媛県在宅介護研修センターオンライン県民公開講座. Web 配信 (2023.6.21-27)
9. 三瀬和人. 愛媛県における失語症者向け意思疎通支援事業の展開状況と見えてきた課題について(シンポジウム 4「失語症者向け意思疎通支援事業の現在地点」). 第 24 回日本言語聴覚学会 in えひめ. 松山 (2023.6.23-24)
10. 天野貴裕. 糖尿病とオーラルフレイル～理学療法士の立場から～. 愛媛県立中央病院第 128 回医療連携懇話会. 松山 (2023.7.12)
11. 三瀬和人、鈴木万葉、山下かおり、森川明、名和由一郎. 愛媛県立中央病院における誤嚥性肺炎発症率低減を目指した多職種協同での TQM サークル活動. 第 61 回全国自治体病院学会 in 北海道. 札幌 (2023.8.31-9.1)
12. 木口大輔. 教育原論・人間関係論. 日本理学療法士協会令和 5 年度臨床実習指導者講習会. 松山 (2023.09.2-3)
13. 三瀬和人. 失語症概論. 令和 5 年度愛媛県失語症者向け意思疎通支援者養成講習会. 松山 (2023.9.9)
14. 青木卓也. 身体介助の方法. 令和 5 年度愛媛県失語症者向け意思疎通支援者養成講習会. 松山 (2023.9.23)
15. 三瀬和人. 高齢者の特徴とコミュニケーションの取り方. 愛媛県在宅介護研修センターオンライン県民公開講座. Web 開催 (2023.10.1-7)
16. 三瀬和人. 日本言語聴覚士協会生涯学習プログラム基礎講座「研究法序論」. 令和 5 年度愛媛県言語聴覚士会主催協会基礎講座. Web 開催 (2023.10.15)
17. 天野貴裕、濵田淳平、山本真吾、平井洋生、中矢隆大、伊藤卓夫、薬師神裕子、野本美佳、武市佳己、杉豪介、中村慶子. 小児糖尿病キャンプのウォークラリーにデジタル化要素を取り入れた新たな試み. 日本糖尿病学会中四国地方会第 61 回総会. 松江 (2023.10.27-28)
18. 三瀬和人、伊藤貴子、森川明. 当院消化器外科患者における摂食機能療法の実施状況と嚥下障害の特徴について. 第 59 回愛媛県立病院学会. 松山 (2023.11.11)
19. 清水麻美、青木卓也、木口大輔、黒川絢帆、仙波由梨、二宮美里、椿崇仁. Phase Angle が人工膝関節全置換術術後患者の身体機能に与える影響. 第 59 回愛媛県立病院学会. 松山 (2023.11.11)
20. 井上瑞貴、井出梓、佐々木裕二、本宮美香、森泰子、大沢愛、毛利友香、大久保祐紀、和氣千里. 外来透析患者に対する透析中運動療法の取り組みとその効果について. 第 59 回愛媛県立病院学会. 松山 (2023.11.11)
21. 木口大輔. 教育原論・人間関係論. 日本理学療法士協会令和 5 年度臨床実習指導者講習会. 東温 (2023.11.11-12)
22. 青木卓也、黒川絢帆、佐竹敬太、三瀬和人、清水麻美、秋本由貴、鎌田万里、飯本誠治. 頚髄損傷患者の栄養不足率の低減. 第 24 回フォーラム「医療の改善活動」全国大会 in 広島. 広島 (2023.11.17-18)
23. 清水麻美、青木卓也、木口大輔、黒川絢帆、仙波由梨、二宮美里、椿崇仁. 人工膝関節全置換術術後患者における Phase Angle と身体機能の関連. 第 51 回四国理学療法士学会. 高知 (2023.11.25-26)
24. 木口大輔. 協会指定管理者(初級)研修. 愛媛県理学療法士会協会指定管理者研修会. 松山 (2023.12.10)
25. 三瀬和人. 失語症について～その原因と対応の仕方～. 愛媛県在宅介護研修センター県民公開講座. 松山 (2023.12.19)

(2) 論文・著書

1. 中迫紀彦. 手指関節拘縮に対してスプリント療法を施行した一例. 愛媛県作業療法士会誌 27 巻. 3-8 (2023.3)